

共通教育科目「芸術A」(美術史)の授業設計の検討

藤 原 逸 樹

A Study of Lesson Plans for the General Education Subject 'Art A' (Art History)

Itsuki FUJIWARA

I. は じ め に

共通教育科目は、高等教育で、専門科目に対して学部学科の枠を超えて全ての学科の学生を対象とした科目の総称である。教養教育科目と呼んでいる大学もある。文部科学省の「国立大学法人における教養教育に関する実態調査報告書—総括, FD 関係抜粋—」では、国立大学での教養教育の体系的な構築が困難になっている現実を報告しており¹⁾、立て直す工夫が求められている。共通教育科目は、特定の専門に偏ることなく、学問のすそ野を広げ、広く学問の方法や知識を得ることにより、学問探究の態度を養い、様々な角度から物事を見ることができるといえる能力や、人間性豊かな社会人となるための教養を身につけていくものであり、その重要性が再確認されなければならない。

大学教育のFDに対する社会的要請が強くなってきている。FDは、大学教員の職能開発といわれているが、具体的には授業改善をあげて考えることができる。どのような授業がよい授業であるかについて、それぞれの教員がそれぞれの考えで実践してきたが、10数年前から、学生による授業評価や教員間での授業公開が各大学で行われるようになった。これは、FDが押し進められてきたことを端的に表している。しかし、大学での授業改善がより深化するためには、実践事例を交流できる大学教員の同僚性やFDの実質的な組織化が必要なのであろう²⁾。授業アンケートを開発し、授業改善に役立てた宮本の実践事例が参考になる³⁾。

II. 研究の目的

本研究は、本学共通教育科目である「芸術A」の授業設計を検討する。筆者は、本年度初めて共通教育科目を担当した。「芸術A」は西洋美術史の古代から現在までを概観する内容である。シラバス執筆時に、15回の授業設計を行ったが、各授業の詳細の設計は、一つの授業が終わってから学習の到達の様子や授業の満足度などを鑑みながら次回の授業を設計していく所謂自転車操業的なものであった。本研究は、学生が授業に対して意欲をもって出席し、授業に満足するには、どう授業設計したらよいかを毎回の授業評価を基に検討するものである。

Ⅲ. 研究の対象と方法

1. 対象科目

共通教育科目「芸術A」、講義題目「美術史－その全体と断面－」

2. 授業期間

2012年度前期：2012年4月～7月

3. 対象者

異学科異学年が混在する45名の履修者を対象とした。その内訳は、6学部8学科、4年生10名、3年生13名、2年生10名、1年生12名である。

4. 授業概要（シラバスより抜粋）

<授業の目標（一般目標）>

西洋美術史の古代から現在までを概観する。西洋美術史の各時代における著名な作品や著名な芸術家について知見を深める。興味のある芸術家や作品について調べ、知見を深める。授業を通して美術の意味について考える。

<授業の概要>

西洋美術史の各時代における著名な作品や著名な芸術家の活動を取り上げて、その美術史の意味について考えたり、調べてレポートしたりする学習により、西洋美術史の断面に触れていく。その断面を繋ぎ合わせ、西洋美術史の流れを理解することにより、全体像を把握していく。人間にとって美術とは何か、美術の意味について考える。学習の成果は、学習集積ファイルに集積していく。

5. 方法

授業が学習者の学習意欲を高めることができたかを計るための指標として学習への動機づけについてアンケートを実施した。用紙はアンケートと次回、次々回の授業の予習課題とを1枚（A4サイズ）に印刷したもの（図1）である。アンケートは毎回の授業終了直後に実施し、用紙は次回の授業開始時に回収した。実施回数は14回であった。アンケートの一つの柱は、ARCS動機づけモデルを用いた。アメリカの教育工学者 Keller が提唱している ARCS 動機づけモデルは、授業や教材を魅力あるものにするために、学習意欲を高める手立てを4つの側面で考えるというものである。それらは、Attention（注意）、Relevance（関連性）、Confidence（自信）、Satisfaction（満足感）であり、ARCSは4つの頭文字である。情意面を4つの側面で捉えるものである⁴⁾。鈴木は動機づけ方略とモデルの応用領域、具体的研究を整理し紹介している⁵⁾。

本アンケートでは、Attentionを「おもしろそうだと思いますか」、Relevanceを「やりがいがありそうだと思いますか」、Confidenceを「やればできそうだと思いますか」、Satisfactionを「やってよかったと思いますか」という4つの項目で問うた。1つの項目につき「思った」「少し思った」「どちらでもない」「あまり思わなかった」「思わなかった」から選択するものとした。統計は、履修登録者がほぼ揃った2回目、中間の8回目、最終の14回目の3回分の授業について3回回収できたもの36人分を対象に行った。授業アンケートの同項目における3回の比較

<参加型授業の工夫（調べ学習の発表）>

2回目の授業から座席指定（10個の各机に4名前後）をし、10グループを作った。発表課題は、次の授業内容（例えば芸術家の生涯、作品が生まれた背景）に関わる事柄である。事前に授業者から1つのグループに提示した。授業開始時に5分から10分程度の発表を計画させた。1回の授業で1つのグループが発表、計10回の授業で発表の時間を設けた。

<発展的学習の工夫（美術館レポート）>

美術館レポートは、実際に美術館へ行き、直に作品を鑑賞する発展的で主体的な学習である。14回目の授業の集積ファイルとともに提出を求めた。

<評価の工夫（中間試験，期末試験）>

試験は学習の成果と課題を把握し、その後の学習を促すために行う評価である。「西洋美術史の大まかな変遷・概略について基本的な事項を説明できる。」「授業で扱った著名な作品や著名な芸術家についてその概要を説明できる。」「授業を基に美術の意味について考え、自分なりの見解を展開できる。」などの到達目標が達成できているかを見る。試験を行うことにより、学生は自分自身の習得度を知り、学習活動を調整したり、的確な復習を行うことができる。教員は達成度の低い学生へ対応し、カリキュラムや指導方法、教材などを改善する。

<教材の工夫2（ワークシート）>

ワークシートの活用は、学習がより能動的なものとなることをねらったものである。表1は、いつの授業でどのようなワークシートを使ったかをまとめたものである。また、図2は、11回目の授業のワークシートの例である。

表1 ワークシートの内容

| 回 | ワークシートの内容 |
|---|--|
| ② | ・ミロのヴィーナスの腕を想像して描く |
| ④ | ・ボッティチェリ作「ヴィーナスの誕生」への書き込み ・ボッティチェリ作「春(プリマヴェーラ)」への書き込み |
| ⑤ | ・ダ・ヴィンチ作「モナ・リザ」への書き込み |
| ⑥ | ・ブロンズイーノ作「愛の寓意」への書き込み |
| ⑦ | ・ルーベンス作「パリスの審判」への書き込み ・ルノアール作「パリスの審判」への書き込み ・ベラスケス作「ラス・メニーナス」の人物配置図を書く |
| ⑨ | ・クールベ作「画家のアトリエ」への書き込み |
| ⑪ | ・一点透視遠近法と二点透視遠近法を使って風景画の構図を描く |

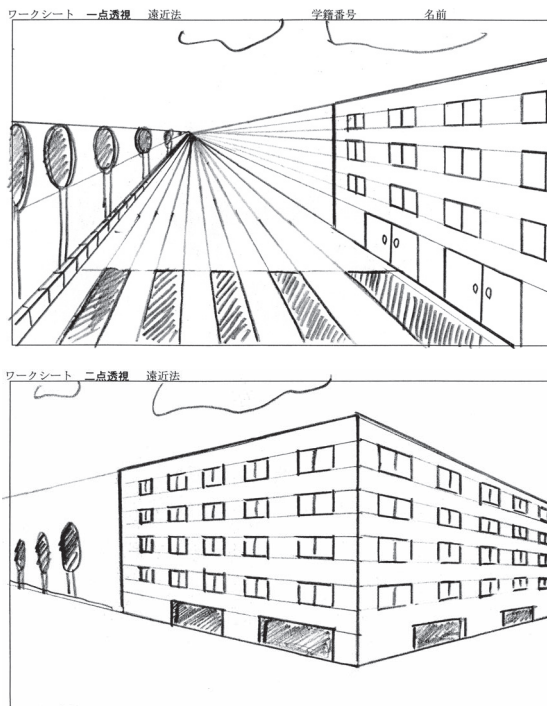


図2 ワークシートの例

V. 結 果

1. 統計

表2～5は、アンケートとその統計の結果である。漸近有意確率を見ると、「やりがいがありそうだと思いますか」の項目が0.408, 「やればできそうだと思いますか」の項目が0.200となり、3回での有意な変化は認められなかった。漸近有意確率0.05未満は、「おもしろそうだと思いますか」の項目が0.018, 「やってよかったと思いますか」の項目が0.026となった。これら2つの項目について3回での有意な変化が認められた。

表2 「おもしろそうだと思いますか」

| | 思った | 少し思った | どちらでもない | あまり思わなかった | 思わなかった | 合計 |
|------|-----|-------|---------|-----------|--------|-----|
| 2回目 | 19 | 11 | 5 | 0 | 1 | 36 |
| 8回目 | 22 | 13 | 1 | 0 | 0 | 36 |
| 14回目 | 24 | 9 | 2 | 1 | 0 | 36 |
| 合計 | 65 | 33 | 8 | 1 | 1 | 108 |

N = 36, カイ2乗=8.042, 自由度=2, 漸近有意確率=0.018

表3 「やりがいがありそうだと思いますか」

| | 思った | 少し思った | どちらでもない | あまり思わなかった | 思わなかった | 合計 |
|------|-----|-------|---------|-----------|--------|-----|
| 2回目 | 17 | 11 | 6 | 2 | 0 | 36 |
| 8回目 | 17 | 13 | 5 | 1 | 0 | 36 |
| 14回目 | 20 | 12 | 3 | 1 | 0 | 36 |
| 合計 | 54 | 36 | 14 | 4 | 0 | 108 |

N = 36, カイ2乗=1.794, 自由度=2, 漸近有意確率=0.408

表4 「やればできそうだと思いますか」

| | 思った | 少し思った | どちらでもない | あまり思わなかった | 思わなかった | 合計 |
|------|-----|-------|---------|-----------|--------|-----|
| 2回目 | 6 | 25 | 4 | 1 | 0 | 36 |
| 8回目 | 11 | 13 | 7 | 4 | 1 | 36 |
| 14回目 | 16 | 13 | 5 | 2 | 0 | 36 |
| 合計 | 33 | 51 | 16 | 7 | 1 | 108 |

N = 36, カイ2乗=3.217, 自由度=2, 漸近有意確率=0.200

表5 「やってよかったと思いますか」

| | 思った | 少し思った | どちらでもない | あまり思わなかった | 思わなかった | 合計 |
|------|-----|-------|---------|-----------|--------|-----|
| 2回目 | 18 | 8 | 8 | 1 | 1 | 36 |
| 8回目 | 21 | 12 | 2 | 1 | 0 | 36 |
| 14回目 | 24 | 7 | 4 | 1 | 0 | 36 |
| 合計 | 63 | 27 | 14 | 3 | 1 | 108 |

N = 36, カイ2乗=7.265, 自由度=2, 漸近有意確率=0.026

2. 理由の記述

アンケートのもう一つの柱は、ARCSモデルのアンケートに加えて、各項目の下段に理由の記述(自由記述)を設けたことである。理由の記述は、毎回すべてに目を通し、次回の授業設計に役立てようとした。表6は、各回の授業の特徴的な方略に関連のある記述をまとめたものである。()の数値は同意の記述の人数、▲は批判的な記述である。

表6 授業方略に関連した記述

| 授業計画 | 授業方略に関連した主な記述 |
|-----------------------------|---|
| ①「オリエンテーション・美術史の見方」 | ・予習やレポートなど課題がたくさんあるのでやりがいがある(7)。・(美術館)鑑賞レポートが斬新で楽しそう(4)。・次回の授業の予習があると理解も深まる(1)。・美術から歴史が学べるなんて素敵だ(1)。・授業が進むほどおもしろくなりそう(1)。▲レポートなど課題が多いので大変そう(2)。 |
| ②「古代(メソポタミア・エジプト・ギリシャ・ローマ)」 | ・ミロのヴィーナスの腕を考えて描くのがおもしろかった(8)。・深く詳しく学んでいくことは教養になる(3)。・大事な部分はゴシック体になっているのでよい(2)。・扱う作品が有名なものばかりなのが良い(2)。・様々な作品をもっと調べて理解していきたい(2)。・90分間に多くの内容を学ぶのは大変だが知識の量が増えるので頑張りたい(1)。・美術館に行ったとき知識があると楽しそう(1)。・ギリシャ神話にか |

| | |
|----------------------------------|---|
| | <p>かわる内容がおもしろかった(1)・トルソやボンベイがよく分かり、おもしろかった(1)・資料の内容が濃い(1)・予習したことが正しいか分かるのでやりがいがあった(1)・▲よく知っている内容ばかりでおもしろくない(1)。</p> |
| ③「中世(初期キリスト教・ビザンティン・ロマネスク・ゴシック)」 | <p>・黄金比率がおもしろかった(17)・キリストや聖書のおもしろかった(3)・もっと美術史について知りたいと思った(3)・作品の背景について調べたいと思った(3)・美術史が楽しくなってきた(2)・ギリシャ神話について勉強し直そう(1)・キリスト教について勉強したい(1)・勉強した作品に街で出会い、題名が言えた(1)・歴史の変化と美術の変化がよく分かった(1)・先生の情熱を感じる(1)・▲内容が薄い(1)。</p> |
| ④「近世①(初期ルネサンス)」 | <p>・ヴィーナスの誕生、プリマヴェーラについて知ることができた(15)・ワークシートがおもしろかった(4)・ダビンチの生涯や女性観が少し分かった(3)・ウフィツイ美術館に行きたくなった(3)・作家の個性や作品に込められた思いがおもしろい(2)・アトリビュートがおもしろかった(1)・ヴィーナスや神話の話をもっと聞きたい(1)・作品について自分で解説できるようになると楽しい(1)。</p> |
| ⑤「近世②(盛期ルネサンス)」 | <p>・モナリザについていろいろな意味があることがおもしろかった(9)・最後の晩餐の説明がおもしろかった(4)・ダ・ヴィンチについてもっと調べたい(2)・ルネサンスの3人の巨匠について知ることができた(2)・最後の審判の分析がおもしろかった(1)・作品に込められた思いがおもしろい(1)・学生の発表で、自分の調べきれなかったことが出てきてよかった(1)・学生の発表や先生の話がおもしろかった(1)・空気遠近法などの技法を知ることができた(1)。</p> |
| ⑥「近世③(北方ルネサンス・マニエリスム)」 | <p>・「愛の寓意(ブロンズイーノ)の作品についてワークシートで考えることができた(18)・アナモルフォーシスがおもしろかった(6)・「アルノルフィニ夫妻像」の意味が分かった(4)・アトリビュートの理解が進んだ(2)・マニエリスムについて理解できた(2)・大原美術館に行ってみよう(2)・(美術館に行ったとき)作品に込められた意味などを読み取れるようになりたい(1)・これからは作品の細かい部分まで見るようになる(1)・作品に込められた意味について調べてみたい(1)。</p> |
| ⑦「近世④(バロック)」 | <p>・フェルメールの作品について理解が深まった(13)・「パリスの審判(ルーベンス)の作品についてワークシートで考えることができた(8)・「ラス・メニーナス(ベラスケス)の作品についてワークシートで考えることができた(6)・試験が不安だ(6)・レンブラントが印象的だった(2)・ローマの教会には有名な絵画や彫刻があることが分かった(2)・ローマに行ってみよう(2)・もっと彫刻についても知りたい(1)・フェルメールやレンブラントについてもっと調べたい(1)・ひろしま美術館に行ってみよう(1)・「ダナエ(レンブラント)について理解が深まった(1)・作品が(スクリーン)でカラーで見れるところがいい(1)・予習をしているのでやればできる(1)・日本で一番行った方がいい美術館はどこですか(1)。</p> |
| ⑧「近世⑤(ロココ)・中間試験」 | <p>・試験が難しかった(13)・ロココの作品は繊細で美しい。好きだ(8)・「着衣のマハ」「裸のマハ(ゴヤ)について理解が深まった(7)・ロココの作品について理解が深まった(6)・「ぶらんこ」について理解が深まった(6)・試験の作品解説の問題はできた(2)・「シテール島の巡礼」について理解が深まった(2)・だんだん美術史が頭に入ってきた(2)・ゴヤについて理解が深まった(1)・時代とともに作品が変化していくのがおもしろい(1)・美術館に行きたくなった(1)。</p> |
| ⑨「近代①(新古典主義・ロマン主義・写実主義)」 | <p>・「画家のアトリエ(クールベ)について理解が深まった(6)・「波」について理解が深まった(5)・試験の結果がよくなかった(2)・期末試験はがんばりたい(2)・「ナポレオンの戴冠式(ダヴィッド)について理解が深まった(2)・「民衆を導く自由の女神(ドラクロア)について理解が深まった(2)・新古典主義、ロマン主義、写実主義に興味を持った(2)・教科書に出ていた作品が多く、おもしろかった(2)・アングルの作品について理解が深まった(1)・寓意について調べるのがおもしろい(1)・クールベについて発表したので理解が深まった(1)・デフォルメについて理解が深まった(1)・先生の好きな作品「波」を知ってよかった(1)・個人的に好きな作品を見つけることができたので、やってよかった(1)・▲授業のスピードが早く、メモが間に合いません(1)。</p> |
| ⑩「近代②(印象主義)」 | <p>・知っている作品が多く、おもしろかった(9)・ひろしま美術館に見るべき作品が多くあることが分かった(7)・クリムトの作品について理解が深まった(5)・ジャポニズムについて理解が深まった(5)・「オフィーリア(ミレイ)について理解が深まった(5)・パステル画の技法に感動した(4)・マネについて理解が深まった(2)・ゴッホについて理解が深まった(2)・DVDがおもしろかった(2)・ゴッホについて発表したので理解が深まった(1)・ゴッホについて詳しく調べたい(1)・「落ち穂拾い(ミレー)について理解が深まった(1)・「草上の昼食(マネ)について理解が深まった(1)・ドガのように何か強い意志を持って書いている画家がいることが分かった(1)・学内に多くの作品が掲示してあるのでうれしい(1)。</p> |
| ⑪「近代③(後期印象主義)」 | <p>・透視遠近法を用いて風景画を描くのがおもしろかった(18)・ゴッホについて理解が深まった(11)・ひろしま美術館に見るべき作品が多くあることが分かった(6)・セザンヌの構図について理解が深まった(4)・点描画について理解が深まった(4)・ゴッホについてもっと知りたいと思った(2)・「グランド・ジャット島の日曜日の午後(スーラ)について理解が深まった(1)・大原美術館に行ってみよう(1)。</p> |

| | |
|--------------------|---|
| <p>⑫「世紀末～20世紀」</p> | <p>・ムンクについて理解が深まった(7)。「ヘクトルとアンドロマケ」(キリコ)について理解が深まった(6)。 ・「ヴィーナスの夢」(ダリ)について理解が深まった(4)。 ・ピカソについて理解が深まった(4)。 ・ルドンについて理解が深まった(4)。 ・カンディンスキーについて理解が深まった(3)。 ・ひろしま美術館に見るべき作品が多くあることが分かった(3)。 ・広島県立美術館の「ヴィーナスの夢」(ダリ)を見に行きたい(2)。 ・広島県立美術館のマグリットを見に行きたい(2)。 ・シュールレアリスムについて理解が深まった(2)。 ・ムンクについて調べて発表したので理解が深まった(1)。 ・ピカソについてもっと知りたいと思った(1)。 ・ロートレックについて理解が深まった(1)。 ・ミロについて理解が深まった(1)。 ・マグリットについて理解が深まった(1)。 ・「赤・黄・青・黒のコンポジション」(モンドリアン)は自分でも描けそう(1)。 ・世紀末の美術に興味を持った(1)。 ・現代美術に興味を持った(1)。 ・来週、大塚国際美術館に行くのが楽しみだ(1)。</p> |
| <p>⑬「現在の美術の動向」</p> | <p>・現代美術について理解が深まった(9)。 ・クリストについて理解が深まった(6)。 ・ゴールズワージーについて理解が深まった(4)。 ・サグラダファミリアについて理解が深まった(3)。 ・「泉」(デュシャン)について理解が深まった(2)。 ・「親指」(セザール)について理解が深まった(2)。 ・ひろしま美術館の「ヴィーナス」(マイヨール)を見に行った(2)。 ・美術の捉え方が多様化してきておもしろい(1)。 ・クリストについて発表を聞き、理解が深まった(1)。 ・シーガルについて理解が深まった(1)。 ・ウォーホルについて理解が深まった(1)。 ・東京の美術館に行ってみたい(1)。 ・芸術の定義について考えさせられた(1)。 ・広島県立美術館の「ヴィーナスの夢」(ダリ)を見に行った(1)。 ・ワイエスについて理解が深まった(1)。 ・ワイエスについてもっと調べたい(1)。 ・パウハウスやアールデコについて理解が深まった(1)。 ・DVDがおもしろかった(1)。</p> |
| <p>⑭「世界の様々な美術」</p> | <p>・期末試験はがんばりた(4)。 ・世界には様々な美術があることが分かった(4)。 ・イスラム教の美術について理解が深まった(4)。 ・モアイ像について理解が深まった(4)。 ・アボリジニの美術について理解が深まった(3)。 ・ケルト美術について理解が深まった(2)。 ・世界の宗教と美術の関係について調べてみたい(2)。 ・見たこともない美術について鑑賞したことがおもしろかった(2)。 ・予習をしていたので理解できた(1)。 ・モアイ像について調べて発表したので理解が深まった(1)。 ・資料集を買い集めたい(1)。 ・最後のまとめは深いものだった(1)。 ・世界史と美術を照らし合わせたらおもしろい(1)。 ・作品が歴史を表していることがおもしろい(1)。</p> |

VI. 考 察

1. 統計

統計の結果では、「おもしろそうだと思いますか」の項目と「やってよかったと思いましたか」の項目に有意な変化が認められた。表2の「思った」と「少し思った」を合計すると、36名中2回目が30名、8回目が35名、14回目が33名となった。また、「思った」は19名、22名、24名と増加傾向にある。このことから、授業において、学生の注意を引き、それを維持することができたのではないかと推察される。表5で「思った」と「少し思った」を合計すると、36名中2回目が26名、8回目が33名、14回目が31名となった。また、「思った」は18名、21名、24名と増加傾向にある。このことから、授業においてそれぞれの学生の内的な課題がある程度達成されていったのではないかと推察される。

一方「やりがいがありそうだと思いますか」の項目と「やればできそうだと思いますか」の項目は、有意な変化は認められなかった。表3と表4を見ると概ね肯定的な回答が多いが、「少し思った」「どちらでもない」「あまり思わなかった」という中間的な回答が、表2や表5に比して多いことが分かる。学生のニーズに合った学習内容の検討や学習中や学習後の意味のある成功体験(例えば、既習の応用や発展)を提供していくような改善が求められる。

2. 理由の記述

<課題型授業の工夫(予習課題)>

予習課題は、次回と次々回の授業内容に関わる調べ学習であった。文献を紐解いた学生は少な

く、インターネットで検索して転記した学生が多いように感じた。しかし、予めどのような学習をするのかを知っておくことにより、自分がわからない部分が明確になり重点的にそこを聞くなど、課題意識を持って授業に臨めたのではなかろうか。「予習したことが正しいか分かるのでやりがいがあった」などの記述からもこのことが想像できる。

<参加型授業の工夫（調べ学習の発表）>

発表者はグループで発表計画を立て、文献等で調べ、整理し、まとめて分担発表した。発表者からは「調べて発表したので理解が深まった」という内容の記述が数例あった。また、「学生の発表で、自分の調べきれなかったことが出てきてよかった」「学生の発表や先生の話がおもしろかった」「クリストについて発表を聞き、理解が深まった」といった記述があった。それぞれが調べてきた予習課題について発表を聞くことにより理解を深めることができたようだ。

<発展的学習の工夫（美術館レポート）>

美術館レポート（A4サイズ1枚）について、学生に1回目の授業で説明した。配布資料を集積したファイルとともに、授業の最終回での提出を求めた。「(美術館)鑑賞レポートが斬新で楽しそうだ(4名)」「ひろしま美術館の「ヴィーナス」(マイヨール)を見に行ったら(2名)」「広島県立美術館の「ヴィーナスの夢」(ダリ)を見に行ったら」「来週、大塚国際美術館に行くのが楽しみだ」といった学生の記述があった。授業で扱った県内や中国四国地方の美術館所蔵作品を見に行ったらレポートが多かった。東京や滋賀などの美術館を訪れた学生もいた。また、見てきた感想を授業後に報告する学生がいた。今後は、レポートの提出のみならず、授業の中でその内容の口頭発表を計画することや、授業を美術館で行うことも検討していきたい。

<評価の工夫（中間試験、期末試験）>

中間試験は難しいと感じた学生が多かった。西洋美術史の概略、基本的な事項であっても重要な事項は数多くあり、困惑した学生もいた。試験の結果から自分の課題を把握し、その後の学習に取り組もうとしていた。中間試験後の授業は、シラバスに示した到達目標を確認し「著名な作品や著名な芸術家についてその概要が説明できる」よう、教材を改善していった。期末試験も単に暗記をしておけば解けるような問題ではなく、「基本的な事項が説明できる」「美術の意味について自分なりの見解を展開できる」よう、作問を工夫した。

<教材の工夫1（作家、作品の選定とその資料づくり）>

配布した資料は1回8ページ前後で、全授業の合計は119ページとなった。2回目、3回目のアンケートの記述に、「よく知っている内容ばかりでおもしろくない」「内容が薄い」といった批判的なものもあったため、より専門的な内容を求めているのか、授業で学生の声を直に聞いたが、ほとんどの学生がシラバス通りの計画を望んでいることが分かり、西洋美術史の全体像を把握していくことを確認した。「大事な部分はゴシック体になっているのでよい(2名)」「扱う作品が有名なものばかりなのが良い(2名)」「深く詳しく学んでいくことは教養になる(3名)」「美術館に行ったら知識があると楽しそう」「〇〇美術館へ行ってみたい」「資料の内容が濃い」といった肯定的なもの記述は、授業方略として意図したことが反映されているといえよう。

<教材の工夫2（ワークシート）>

学生の記述を見るとワークシートに関する内容が最も多かった。主なものは、「ミロのヴィーナスの腕を考えて描くのがおもしろかった(8名)」「ヴィーナスの誕生、プリマヴェーラについて知ることができた(15名)」「モナリザについていろいろな意味があることがおもしろかった(9名)」「愛の寓意(ブロンズイーノ)の作品についてワークシートで考えることができた(18

名)」「[ラス・メニーナス](ベラスケス)の作品についてワークシートで考えることができた(6名)」「[パリスの審判](ルーベンス)の作品についてワークシートで考えることができた(8名)」「[画家のアトリエ](クールベ)について理解が深まった(6名)」「透視遠近法を用いて風景画を描くのがおもしろかった(18名)」などである。記述に見られるようにワークシートを用いた授業の反応は良好であった。「愛の寓意」など難解な作品の読み取りにも有効だったようである。今後はワークシートを活用した授業事例を蓄積し、より有意義なワークシートになるよう検証していくことが必要である。

参考引用文献

- 1) 文部科学省ホームページ, 中央教育審議会 大学分科会 制度部会 (第23回(第3期第8回)) 議事録・配付資料 [資料3] 国立大学法人における教養教育に関する実態調査 報告書 (総括, FD関係抜粋) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/07012402/001/003.htm
- 2) 宮本健市郎, 「大学における授業改善の方策—よい授業を実現するためのFD—」, 関西学院大学高等教育研究 第2号, 2002, p.1
- 3) 同上論文, pp.1-14
- 4) 鈴木克明, 『教材設計マニュアル』, 北大路書房, 2002, pp.176-177
- 5) 鈴木克明, 「魅力ある教材」設計・開発の枠組みについて—ARCS動機づけモデルを中心に—, 教育メディア研究 Vol.1 No.1, pp.50-61
- 6) 対馬栄輝, 『SPSSで学ぶ医療系データ解析』, 東京図書, 2007, p.188

[2012. 9. 27 受理]